

一般社団法人 日本現代美術振興協会（APCA）

令和8年度 大阪府所蔵美術作品活用活性化事業

鑑賞機会の拡大へ。約7,900点のコレクションの一部を府内各地で公開
令和8年度「大阪府所蔵美術作品活用活性化事業」が新体制で始動
第一弾「大阪トリエンナーレ 1990-1998, 2001」
8月1日（土）よりATCアートウィンドウで

大阪府と関西最大級の現代美術フェア「ART OSAKA」を主催する一般社団法人日本現代美術振興協会（APCA）は、令和8年度の「大阪府所蔵美術作品活用活性化事業」を開始します。府が所蔵する美術作品「大阪府20世紀美術コレクション」（約7,900点）の中から選りすぐりの作品を府内各地で展示し、鑑賞機会を広げる取り組みです。全体監修には、関西の現代美術シーンを長年支えてきた中井康之（元国立国際美術館 副館長）を迎え、秋以降に開催する2回のコレクション展は、大阪・関西にゆかりのある気鋭のキュレーター、檜山真有と長谷川新がそれぞれ企画します。

- 収蔵から展示へ -

大阪府は常設の美術館を持たないなか、このコレクションを江之子島文化芸術創造センター（enoco）で管理・展示するとともに、府内各地の施設での常設展示や、約200点をバーチャル空間で公開する大阪バーチャル美術館「enoco+」を通じて、作品にふれる機会を広げてきました。2026年1月には、新たな展示拠点「ATCアートウィンドウ」もオープン。令和8年度はこの流れをさらに前へ進め、コレクションの価値をあらためて見つめ直すとともに、府内各地での展示公開を広げていきます。

- 展示第一弾 -

当事業の展示第一弾として、2026年8月1日（土）に「ATCアートウィンドウ」がリニューアルオープンします。展示テーマは、大阪が現代美術で世界とつながった国際現代造形コンクール「大阪トリエンナーレ」。その受賞作6点を紹介します。ウィンドウ越しに、観覧時間中いつでも無料でご覧いただけます。ぜひご注目いただき、貴媒体でご紹介いただくと幸いです。

ご取材/お問合せ先：一般社団法人日本現代美術振興協会 | APCA

〒540-0012 大阪府中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B

令和8年度 大阪府所蔵美術作品活用活性化事業

担当：川西、櫻岡 press@enoco.jp TEL：06-6777-8303

■展示概要

大阪トリエンナーレ 1990–1998, 2001 (Osaka Triennale 1990–1998, 2001)

大阪を国際的な現代美術の発信拠点とすることを目指し、1990年に創設されたのが国際現代造形コンクール「大阪トリエンナーレ」です。第1回には世界81の国と地域から28,000点を超える作品が寄せられ、その後2001年まで開催されました。本展では、大阪府所蔵の「大阪府20世紀美術コレクション」の中から大阪トリエンナーレの受賞作品を中心に、6点を紹介いたします。



1. チラシメインビジュアル

会期：2026年8月1日（土）～（終了日未定）

観覧時間：10:00–19:00

観覧料：無料

会場：ATCアートウィンドウ

（大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC〔アジア太平洋トレードセンター〕ITM棟4階）

アクセス：Osaka Metro ニュートラム「トレードセンター前駅」直結

WEB：https://www.enoco.jp/topic-details-69.html

主催：大阪府

実施主体：一般社団法人日本現代美術振興協会（APCA）

監修：中井康之（元国立国際美術館 副館長）

展示コーディネート：櫻岡聡、川西遥、松田雅代

グラフィックデザイン：sato design.

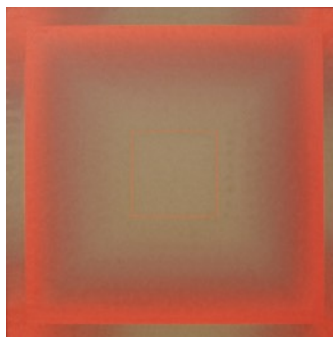
什器設計・制作：葎村太一

出品作家・作品：

- ・ マリア・マンリケ（ベネズエラ／1990年 絵画部門 銅賞）《PEZ A'PACE》
- ・ アンゲリカ・ミッデンドルフ（ドイツ／1991年 版画部門 グランプリ）《Contrary》
- ・ アルフレド・ベナビデス・ベドヤ（アルゼンチン／1994年 版画部門 入選）《知識の理論》
- ・ 久保晃（日本／1996年 絵画部門 朝日放送賞）《コンポジション94 O.A.》
- ・ ディーン・レズリー・ボーエン（オーストラリア／1997年 版画部門 ダイキン賞）《嫉妬と無邪気》
- ・ 張大力（チャン・ダリ）（中国／2001年 全ジャンル 銅賞）《破壊》



2. マリア・マンリケ 《PEZ A'PACE》
オイルパステル、紙 1990



3. 久保晃 《コンポジション94 O.A.》
油彩、キャンバス 1995



4. ディーン・レズリー・ボーエン 《嫉妬と無邪気》エッチング、アクアチント、ドライポイント 1997

■ 今後の展開

当事業では、ATCアートウィンドウを皮切りに、府内各地の展示場所を順次リニューアルするほか、秋以降には、キュレーターがそれぞれの視点からコレクションを読み解き、新たな切り口で紹介するコレクション展を府内で2回開催する予定です。

【コレクション展①】詳細は後日発表

キュレーター：檜山真有（ひやま・まある）

1994年大阪生まれ。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修了。キュレーター。2023年よりアートセンターBUGにて勤務。越後妻有里山現代美術館 MonET連続企画展ゲストキュレーター（2023-26）。主なキュレーションに「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」（2023）、藤岡亜弥個展「Forget Me Not」（2026）など。

【コレクション展②】詳細は後日発表

キュレーター：長谷川新（はせがわ・あらた）

インディペンデントキュレーター。関西圏での企画に「クロニクル、クロニクル！」（2016-17）、「奈良・町家の芸術祭 はならあと2023 宇陀松山エリア SEASON2」（2023）、「戦後80年企画 大和楓個展 シッティング・イン・ザ・タイム」（2025）、西澤諭志「世界無名戦士の日」（2026）、中井輪「庶民烈伝」（2026）などがある。



5. 檜山真有



6. 長谷川新
撮影：FM797 三条ラジオカフェ

■ 実施体制

監修：中井康之（元国立国際美術館 副館長）

事業統括：櫻岡聡（一般社団法人日本現代美術振興協会）

マネジメント：宮本典子（一般社団法人日本現代美術振興協会）

キュレーション：檜山真有（キュレーター／アートセンターBUG）／長谷川新（インディペンデントキュレーター）

展示コーディネート：川西遥、鈴木香澄、中島悠里（一般社団法人日本現代美術振興協会）／松田雅代（アートマネージャー）

中井康之（なかい・やすゆき）

1959年生まれ。1999年より国立国際美術館に勤務し、学芸課長、副館長を歴任。主な企画展に「もの派—再考」（2005）、「クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime」（2019-20）など。2026年、著書『「もの派」とは？』（水声社）を刊行。

■最新情報・SNS

本事業や展覧会の最新情報は、公式Instagramおよびデジタルアーカイブ「enoco+」で随時発信します。ぜひフォローをお願いいたします。

- ・ 展覧会公式ページ：<https://www.enoco.jp/topic-details-69.html>
- ・ 公式Instagram：@osakavirtualartmuseum
- ・ デジタルアーカイブ enoco+：<https://www.enoco.jp>
- ・ X：@osakaVAMuseum / Facebook：osakaVAM / YouTube：@osakaVAMuseum

周知・掲載のお願い

本事業の趣旨・取り組みを広くお伝えいただくため、周知およびご掲載にご協力いただけますと幸いです。

■広報用画像・ご取材について

1～6の掲載用の広報用画像を以下ドライブにご用意しております。ご使用の際は、クレジット明記にご協力ください。

<https://drive.google.com/drive/folders/138G2u6lowuqUGRmQ40IHytKk6pBxxdRW?usp=sharing>

また、ご掲載が決まりましたら、掲載紙またはPDFデータを1部事務局までお送りいただくか、掲載先URLをご共有いただけますと幸いです。

取材日程についても個別にご相談を承ります。ご希望の際は、下記までお問い合わせください。

ご取材/お問合せ先：一般社団法人日本現代美術振興協会 | APCA

〒540-0012 大阪府中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B

令和8年度 大阪府所蔵美術作品活用活性化事業

担当：川西、櫻岡 press@enoco.jp TEL：06-6777-8303